

R4学校評価報告書

教育目標	人間尊重の精神を基盤に、知・徳・体の調和のとれた児童の発達をめざす —人間性豊かなたくましく生きる子の育成—
めざす子ども像	お・・・おもいやりのある子 お・・・おちついて考える子 う・・・うんどうにはげむ子 だ・・・だれとでもはげましあう子

A：十分に達成されている B：相当程度達成されている C：達成がやや不十分である D：達成が不十分である

大項目	中項目	番号	具体的目標	取組と成果	評価		評価の観点・理由	課題・改善方策
I 学校経営	①教育目標	1	児童や地域など学校の実態にあった学校教育目標が設定されている		B	B	○保護者の95.3%は肯定的評価であり、否定的評価は1.2%、「わからない」は3.5%であった。	○普遍的な学校教育目標に沿って、具体的な年次目標を策定している。
		2	学校教育目標に基づいた教育課程が編成されている	○学校教育目標に基づいた教育課程を編成している。 ○授業時数を集計し教科の時数不足が無いようにしている。	B		○月別の授業時数を調べることで、進度の見直しをもち、指導内容を工夫できるようにしている。	○コロナ禍で行わなくなった行事を見直し、スリム化して授業時数を圧迫しないようにする。
II 教育活動	②教育課程 学習指導	3	児童の学力調査等の結果を指導法改善に結びつけ、次の指導に生かしている	○校内研究のテーマを決め研修を進めている。	B		○研究授業を行うことで、指導力向上を図ることができた。	○県、国の学力診断テストを効果的に分析し、活用していく。
		5	「体力テスト」の結果を児童の運動能力や体力の向上に生かしている	感染対策をしながら各学年で「体力テスト」を実施した。結果の分析を行い、課題の共通理解を図った。	B		○体力テストを実施することで、データを取ることができたが、結果の共有にとどまり、全校での具体的な取り組みにつなげられていない。	○今後も記録を積み立てていくことで特色が見えてくる。結果をもとに課題改善の運動例などを示し、全校体制で体力の向上に努めていく。
		7	視聴覚教材や教育機器などが整備され、授業に活用している	○タブレットや書画カメラ等、ICT機器は充実している。	A		○職員、児童ともにタブレット端末の扱いに慣れてきている。	GIGAスクール構想について理解を深め、効果的なICT機器の活用を目指す必要がある。研修部と協働し、研修計画を立てる。
		8	体験的・問題解決的な学習、児童の興味・関心を生かした学習を推進している	○コロナ禍の中であったが、授業では工夫を行い、体験的な学習や問題解決的な学習を大切にしてきた。	B	B	○総合の授業や社会科の授業で、体験的な学習の場を設けている。	○今後も、体験的な学習や問題解決的な学習を大切に取組を進めていく。また、アクティブラーニングを授業の中に積極的に取り入れる。
		9	個に応じた指導（個人指導・グループ指導、習熟の程度に応じた指導、興味・関心に応じた課題学習、補充的・発展的な学習、教師の協力的な指導等）を推進している	○学年によっては、算数科のチームティーチングを行っている。 ○特別支援教育では、学年の枠を超えて自立活動を行っている。個別の学習の機会を多く設けている。	B		○児童のつまずきを早期に見出し、復習学習を中心に学習支援をしている。 ○放課後教室を活用し、個に応じた学習内容で取り組んでいる。 ○支援員の先生の熱心な支援が児童の力の伸長に寄与している。	○今以上に人員を確保し、取り組む必要がある。
		10	授業や教材開発において外部人材を活用している	○コロナ禍ではあるが、規制も緩くなり、多くのゲストティーチャーを招くことができた。	B		○オンラインでの見学活動など、ICTを活用することもできた。	○ならの教育応援隊といったデータバンクを活用していく。
		11	地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源を授業に活用している	○校区内の自然、文化財等を活用した授業が行われた。	B		○コロナ禍で地域行事が縮小されているため参加できないことがあった。	○地域の人材を学校で整理し、活用できる体制を整える必要がある。

II 教育活動	③人権教育	12	学校図書館の活用や読書タイムの設定など、読書活動を推進している	○朝の読書タイムと図書室の活用を進めた。 ○6年生の1年生への本の読み聞かせ活動をした。 ○市の図書館司書による図書室の環境整備が行われた。	B	B	○図書委員会の年間計画とも連動して取り組むことができた。	○いろいろな図書を児童に紹介することで興味関心を高める。 ○地域の図書館やお話の会との関係をさらに深めていく。
		14	児童の実態を基に人権教育年間指導計画を作成し、計画的に実施している	○年間指導計画をさらに充実させるために、学年ごとに教材の見直しを行っている。	B		○学年や児童の実態に合った教材になるように選別を工夫している。	○地域のフィールドワークを実施していきたい。 ○同和教育をさらに深めるために地域教材の発掘や開発を、積極的にしていかなければならない。
		15	「ながまの菜い」や「人権を確かめあう日」並びに日々の学習を通して人権感覚を育てている	○コロナ禍ではあったが、平和教育やハンセン病についての学習を他学年に伝えることができた。	B		○人権を確かめ合う日、毎月11日に合わせて人権の話をしている。	○毎月の11日人権を確かめ合う日を意識して、人権感覚を養っていきたい。
		16	教職員が校外内の研修会に参加し、人権教育についての理解や指導力の向上を図っている	○リモートではあったが市人教専門部会や宇陀市の研修に参加して同和教育の研修ができた。	B		○インクルーシブ教育や水平社博物館の見学、LGBT-Q(SOGI)についての研修を実施し、知識を深めた。	○学習会を企画運営することで、教員相互で話し合いをもつことで指導力の向上を目指す。
	④生徒指導	17	生徒指導に教職員が一丸となって取り組み、児童の問題行動等への対応を適切に行っている	○本校の課題である「大宇陀3つの約束」に組み込み、重点的に指導に当たった。	B	B	○個別に対応が必要な事象について、教職員間で共通理解を図り、迅速に対応できた。	廊下歩行に課題があるため、次年度から教職員で一丸となって重点的に取組を進める。
		18	豊かな人間関係づくりや規範意識の向上に向けた指導を行っている	○本校の課題である「大宇陀3つの約束」に組み込み、重点的に指導に当たった。	B		○児童アンケートの評価がどの項目も90%以上を達成するように指導を工夫する。	委員会や高学年と協働して、更なる規範意識の向上を目指す。
		19	校内の教育相談体制が整備されている	○SCの保護者への周知が進み、利用が増えている。また、SC、職員間で意見交流を行い、児童理解を深めることができた。	B		○時間内でカウンセリングが実施できないうきや発達検査が必要な場合は、SCが本校への派遣日以外に時間を設けて対応してくれている。	○SCが派遣日以外に時間を設けて対応してくれている現状があるので、カウンセリング日の増加を要請していく必要がある。
	⑤キャリア教育	20	家庭・地域社会・関係機関等と連携しながら生徒指導を進めている	○家庭生活に課題がある児童の対応を市機関などと連携して取り組むことができた。	B	B	○学校外部との連携で事象が好転したケースもあり、今後も続けていく。 ○児童の登下校について、ボランティアや見守り活動が行われた。	今後も引き続き関係各所へ働きかける必要がある。PTAでも見守り活動を続けてもらうようにする。
		22	自立した社会人の育成をめざして発達段階に応じたキャリア教育を推進している	○「児童の生活そのものがキャリア教育と結びついている」ということを意識付けることができた。	B		○個人ファイルを作成し、各学年でキャリア教育を推進することができた。	○日常生活の中で児童が継続して関心をもてるような取り組みを今後も続けていきたい。
			23	校内委員会・特別支援教育コーディネーター・校内研修など校内支援体制が整備されている	○校内研修でたんぼタイムや個別の学習について職員と共有することができた。 ○定期的に支援学級担任者会を開き、児童の実態を出し合い、個に応じた支援の方法を検討した。 ○県リハビリセンターや巡回アドバイザーの先生を招き、指導のあり方についてアドバイスを受け、指導にいかせた。	A	○市の教育相談やスクールカウンセラー、通級指導教室の先生とも連携しながら、子どもの実態把握をして支援のあり方を考えることができた。 ○交流学級担任とも共通理解を図りながら、個に応じた支援体制を考えることができた。	○今後も校内支援体制の整備、および共通理解を図り、連携していく。

	⑥特別支援教育	24	学級間・学校間の交流学習や共同学習が実施されている	○たんぼばタイムで自立活動の授業を設定し、異学年で交流をしながら学習することができた。	B	B	○居住地交流については、コロナ感染予防のため、全校児童との交流はできなかった。 ○たんぼばだよりを発行し、保護者や職員に周知することができた。	○学級間・学校間の交流学習や共同学習の内容を工夫して、児童の障がい者理解を深めたい。 ○より効果的な学習の仕方、体制を探っていく。
		25	個別の指導計画及び教育支援計画が作成されている	○個別の教育指導計画・支援計画を作成し、支援に役立っている。 ○個別の教育指導計画・支援計画から、個に応じた、見通しをもった支援を行うことができた。	A		○前担任が次年度の個別の指導計画を立てておいたことで、引き継ぎがスムーズにできた。	○個別の教育支援計画・指導計画を交流学級担任とも共有し、支援・指導に生かしていく。
II 教育活動	⑦食育	26	児童の食生活等の実態に即した「食に関する指導の全体計画」が作成され、計画的に実施されている	○2年生で、給食センターの見学や食に関する指導を行ったり、給食中にDVD等を活用したりして、啓発活動を行った。 ○保健給食委員会では、給食時に放送で食に関することについて話をしている。また給食センターにアンケートをとり、結果をまとめ、掲示物等で啓発活動を行った。	B	B	○給食センターの見学や栄養教諭の方による食育指導により、食について関心を高めることができた。 ○コロナ禍で放送を静かに聞くことができており、黙食が定着している。 ○エプロン・マスク・帽子等の着用が乱れている。	○引き続き、給食センターとの連携による食育指導を行う。 ○次年度から、黙食ではなく、日常の給食にどう戻していくかを検討する必要がある。 ○給食時の衛生指導を定期的に行っていく。
III 管理・運営	⑧安全管理	27	学校の安全を確保するための計画や危機管理マニュアルが作成され、実施されている	○年度当初に学校安全計画を作成し、職員に周知した。 ○危機管理マニュアルは、昨年度作成していたものを今年度も継続して使用した。	B	B	○冊子で学校安全計画の周知を行ったが、説明が不十分であった。 ○危機管理マニュアルの周知徹底ができなかった。	○学校安全計画や危機管理マニュアルの周知徹底及び、定期的な見直しを行う必要がある。
		28	学校防災計画を作成し、教職員及び子どもの安全対応能力の向上を図るための避難訓練等を実施している	○計画的に避難訓練を実施できた。 ○年度当初に学校防災計画を作成し、職員に周知した。	A		○子どもたちが、自らの命を守るためにどのように行動すればよいかを考える機会を与え、その方法を身に付けることができた。	○様々な場面を想定した訓練を実施していき、自ら考えて安全に行動できる力を養いたい。
		29	校内や通学路の安全点検が実施されている	○定期的に校内や通学路の安全点検が実施できた。	A		○定期的に実施できた成果と考える。	○来年度も継続して計画的に安全点検を実施していく。

		30	家庭や地域の関係機関・団体と連携して、学校や児童の安全を確保する取組を進めている	○講師を招聘し、不審者対応の職員研修を行った。 ○不審者対応の一つとして、保護者用名札を作成し、参観で着用してもらった。	B		○保護者アンケートの90%は肯定的評価であった。	○今後も講師を招いた安全教育推進のための講習を行う。 ○不審者対応として保護者用名札の徹底を保護者に周知する。
III 管理・ 運営	⑨保健管理	32	学校保健計画を作成し、健康診断が実施され、事後の措置が適切に行われている	○学校計画が作成され、計画に沿って進めている。 ○定期的に健康診断を実施し、その結果を健康手帳「すくすく」を通して家庭に連絡している。 ○けがや病気については、担任と養護教諭が連絡を密にして対応することができた。	A		○保護者アンケートの結果、保護者の96.5%は肯定的評価であった。	○引き続き迅速に家庭に知らせ、保護者と子どもの実態を把握できるようにしていきたい。 ○担任と養護教諭が連絡を密に取り、早期対応に努めていきたい。
		34	心のケア、健康に関する相談活動の体制が整備されている	○心のケアや、成長に関する相談で保護者の希望が多く、スクールカウンセラーに継続的に対応してもらっている。	B	B	○今までの継続的な取り組みにより、カウンセリングの理解が広まり、保護者や子どもの相談が増えた。しかし、SC派遣日が限られているため、相談予約が取りにくい。	○カウンセリングの理解を広めるとともに、引き続きスクールカウンセラーの派遣増の要望を行っていく。
		35	日常の健康観察や疾病予防、子どもの自己健康管理能力向上のための取組を進めている	○身体測定・体重測定時に健康管理や感染症予防に関する指導を行っている。 ○コロナ感染予防の取り組みで感染発生時から日常生活の健康観察、衛生環境を維持した。	A		○継続した結果、コロナ感染者の増加を抑えることができた。	○ウィズコロナの中で日常生活を取り戻す取り組みを徐々に進めていく。
		36	環境衛生保持のため、日々の清掃活動向上の取組を進めている	○日々の清掃指導に取り組んできたが、正しい掃除の仕方や、特にトイレ掃除の指導が十分にできなかった。	B		○全教員で掃除の指導方法を共有する。 ○子どもたちの掃除に対する意識が低い。	○少しでも掃除意欲を高めるために、用具の点検を行い新しい物に変えていく。 ○清掃活動を重点目標にする。
	⑩組織運営	37	校務分掌組織が適切に編成され、有効に機能している	一部の分掌で目的に応じたスリム化が進まなかった。	B		B	○学校全体で、実態に応じた分掌とするための手立てを講じていなかった。
		38	教育活動が円滑に行われるよう、校内予算が適切に執行されている	光熱費を含む限られた予算内での需要に応じた適切な執行ができた。	A	○事務部の複数体制で予算執行の確認を行った。		来年度も適切な予算執行と節約に努める。
		39	学校事故への対応を適切に行っている	小さな事故（ヒヤリハット）についても適切に対応できた。	B	○事故発生時に関係者間で連携し、適切に対応できた。		事故の未然防止指導と発生時の早急対応を日頃よりシミュレーションする。
		40	公文書の作成・収集・保管、個人情報保護など情報管理が適切に行われている	公文書の安全な保管に努める。	A	○定められた場所への保管を徹底できた。		さらなる安全な保管に努める。

Ⅲ 管理・ 運営	①保護者・ 地域との連 携	41	PTA、地域団 体との連携が十 分にとれている	PTA活動の一部がコロ ナ感染拡大予防のため 中止となった。	B	B	○コロナ禍のなか、 活動が制限されつつ も、事業企画および 運営を積極的に行っ ていただいた。	PTA事業を精選しなが ら順次再開する。
		42	学校から保護 者・地域に向け た情報提供が適 切に行われている	学校、学年便り、教育 メール、タブレット端 末、個人懇談等で情報 提供したが、不十分で ある。	B		○地域に向けた情報 提供の場として、学 校ホームページの活 用ができなかった。	ホームページを活用 し、地域に向けた情 報提供を行う。
		43	幼小連携、小中 連携など学校間 の円滑な接続に 関する手立てが 講じられている	子ども園とは、運動会 予行練習見学や体験学 習会、連絡会を再開で きたが、中学校とは連 絡会のみであった。	B		○中学校との連携が 不十分であった。	中学校ともコロナ禍 以前の取り組みを再 開する。
	②施設・ 設備	44	施設・設備の安 全・維持管理の ための点検が実 施されている	各施設設備の点検を定 期的にグループで行っ た。	A	A	○指摘があった場所 については予算内で 危険度に応じて早急 に対応した。	○次年度も、定期的 に多くの視点での点 検を実施する。
	45	勤務時間を意識 しながら業務を 効率的に遂行 し、ワークライ フバランスの推 進を図ることが できる環境が整 えられている。	終了時刻を設定した職員 会議の実施、企画委員会 等でまとめた後の議案提 案、校務支援システムを 利用した連絡事項の共有 等が行われ、会議等のス リム化につながった。そ のため、退勤時刻が昨年 度より早くなった。	B	B	○校務支援システム の積極的な利用を促 す提案がなされ、実 際に運用されたこと が成果につながっ た。	さらなる校務支援シ ステムの効果的な利 用により、よりよい 環境を整えていく。	
③研 修	46	校内研修のテー マや内容が学校 や児童の実態に 即したものに なっている	ペアやグループを基本とした 学び合いの取組は児童の実態 に即したものであると考えて いる。決められたテーマに 沿って各自が実践、推進でき たかどうかは、振り返る必要 がある。	B	B	○研究所から指導主事 を招聘、研究主任から の提案、UDAスタンダ ード推進委員会からの指 示の伝達等、機会を捉 えて研修を実施した。	研究テーマに沿った 実践交流、情報交 換、共通理解を図る ための機会を設定で きると良い。	
	47	校内研修の組織 が整備され、教 職員が意欲的に 取り組んでいる	研究テーマに沿った全 体研修・研究授業を計 3回実施した。	B		○“研究授業”の敷居 を低くしたい。指導案 でなく、“授業デザイ ン”としているのは、 そのための提案の一つ である。大切なのは、 効果的な取組を継続す ることである。	次年度は、今年度同様 に低・高学年ブロック からの授業提案に加 え、特別支援学級から も授業公開（自立活 動）も計画に入れてみ てはどうか。	
	48	校内研修の内容 が教職員の職務 能力の向上に資 するものになっ ている	研究授業の他に、人権 教育、ICT、一人一人 と大切に取る取組等の 研修を実施した。	B		○コロナ流行期に は、計画していた研 修が実施できなかった ものもあるが、概 ね計画通りに実施で きた。	学校の課題、研究テ マ、変化しつつある学 校教育の時流に沿った “アップデート”のた めの研修などを計画し ていく必要がある。	